



村のうづき

銀杏栽培に意欲燃やす

新規作物栽培実証事業

村がすすめる新規作物栽培実証事業は今まで「たらの芽」、「ふき」と次々に新作物の栽培に取り組んできた。研修には、栽培を予定している農家の代表とJAそ



▲銀杏畑を見学する参加者

うま・村職員あわせて6人が参加。新潟県の地域おこしマイスター佐藤康成さんから銀杏栽培についてお話を伺ったほか、実際に銀杏畑

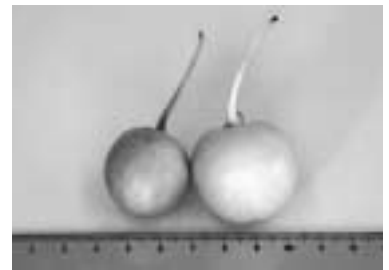
を見学しました。

佐藤さんは、全国を回って銀杏栽培の指導を行うなど、この道の第一人者。佐藤さんは銀杏の栽培について「手入れの良し悪しで何年で実がなるか決まる。土壌作りが何より大切。今度は飯館に行き実際に畑を見て栽培農家を指導したい」と話し、農家の代表らは心強い言葉に栽培へ大きな意欲を燃やしていました。

今後は、

今回村で栽培予定の銀杏は「喜平」という新しい品種で、従来に比べ4倍ほど大きい実が特徴。銀杏は他の果樹に比べ不良条件に強く、農薬による消毒と剪定作業も必要ないとのこと。

今後は秋までに苗がそろえられ、来年春には畑に植えられる予定です。



▲右が「喜平」

農業委員研修〜意欲新たに

6月23日から26日、村農業委員会の視察研修が行われ、長野・岐阜・山梨の3県で委員らが地域活性化対策や所得向上対策等について見聞を広めました。

このうち、長野県清見村では①地域活性化戦略3原則（集中1点突破・リーダー級の徹底育成・トップの英断）、②優秀な人材5原則（役立つ情報力・企画力・経営管理能力・連携力・技術力）、

③行動・印象4原則（あいさつ・返事・キビキビした行動・笑顔）、④言わない3原則（人のことを言わない・過ぎたことを言わない・仕事や頼まれ事をできないと言わない）等を学び、特に言わない3原則を実行できるような決意を新たにしました。

また、同市の園芸育苗センターや農畜産加工センター、道の駅等の整備により、所得向上対策や就労の場づくりにつながっている現状を視察。生産・加工・販売の一体化のために、農家・農協・行政等の連携のとれた積極的な取り組みの必要性を実感していました。

農業委員会では、毎月定例会を開き、様々な話し合いをしています。意見等がありましたらお気軽に委員までお声をかけてください。



▲視察研修のようす